

23. 三重県 (Mie Pref.)

作成者: 中西元男<sup>1)</sup>

作成日付: 2003年4月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EN	ソ,ツ	V	スジボソヤマキショウ	-	藤原町, 菟野町, 伊賀町, 島ヶ原村, 美杉村ほか, 偶産 と思われる産地少数	-	1960年代で絶えており, 絶滅の可能性も? 1960 年代初頭には北鈴鹿にかなり安定した産地あり. その後消滅	森林鬱閉化?	-
EN	ソ,ツ	V	ウラナミジャノメ	-	全県下の22市町村. 最も新し い記録のある産地は津市	-	1960年代から減少. 1990年代には津市の1地点 を除きほぼ消滅	農村における草地形態の変化?	-
EN	ソ,ツ	E	キマダラモドキ	-	関町, 美杉村	-	1969年を最後に記録がない	雑木林の手入れ不足によるヤブ化	-
EN	ソ,ツ	E	ヒメヒカゲ	-	菟野町, 大安町	-	1950年代に記録あり. その後途絶えていたが, 1990年代にごく少数の不明確な報告あり	湿地の消滅. 池畔の公園化等の整備	-
EN	ソ,ツ	E	オオウラギンヒョウモン	-	藤原町, 上野市, 安濃町, そ の他数市町村. 古い記録に はウラギンヒョウモンの誤認 も含まれる可能性あり	-	1950年代に鈴鹿山系, 北部布引山地, 伊賀盆地 の河川堤防で採集されているが, 1960年以降記 録なし	草地管理形態の変化か?	-
VU	タ,テ, ニ	V	ギフショウ	-	上野市, 名張市(現存), 北 勢・菟野・藤原・多度・大安各 町, 鈴鹿養老山地(1990年頃 までに激減・消滅?), 美杉 村(1958年まで), 飯南町 (1979年まで), 安濃・芸濃町 (1980年代にほぼ消滅)	-	県中南部で衰退. 次いで北部鈴鹿山系でも減 少. 残存の伊賀地方に採集者が集中し, 産地荒 廃	里山管理不十分による環境悪化	産地記録状況の変遷は, 中西(1991~1992), ひゃくとりむし(89)(92)(99)にまとめた
VU	タ,テ	なし	ツマグロキショウ	-	32市町村で既記録. 現在は それらの全てで記録がない. 紀和町1998年が最後の記録	-	1990年代に入って全域で急激に減少	不明	中西(2001)ひゃくとりむし(217)に既報をまとめた
VU	タ,テ	V	ウラギンズジヒョウモン	上野市	藤原町など24市町村	-	1970年代まで県北~中部に広く分布. 1980年代 に北勢, 伊賀を除き減少	農山村の草地管理形態の変化か?	中西(1993)ひゃくとりむし(111)にまとめた
VU	タ,テ	V	シルビアシジミ	-	津市(現存?), 藤原町, 桑 名市, 亀山市, 上野市, 安濃 町, 一志町, 香良洲町	-	1950~1960年代に記録があるが, 1970年代に急 速に減少	草地管理形態の変化による	-
NT	チ,ト	R	ル - ミスシジミ	紀和町	-	伊勢市, 大宮町	伊勢市は1950年代, 大宮町1969年が最後. 既に 絶滅の可能性もあり	直接的には台風被害による森林の損壊. それ以 前に産地森林の孤立化による環境悪化が進行し ていたと考えられる	-
NT	チ,ト	V	ウラナミアカシジミ (原名亜種)	-	県中部の多数の市町村で記 録される広域種であるが, そ れら全てで減少	-	1970年代から減少傾向. 近年は産地荒廃が急激	里山管理不十分による荒廃	紀南亜種は宮川村, 海山町, 尾鷲市, 紀和町な どで発生動向不安定であるが, 特に危惧にはあ たらない
DD	ネ	R	キマダラルリツバメ	-	上野市	-	1町でのみ記録あり. 既産地3地点はいずれも短 命で1980年代後半までに消滅. 採集圧も影響 か?	産地孤立化による不安定性	-

1) 〒515-0075 三重県松坂市新町5-959